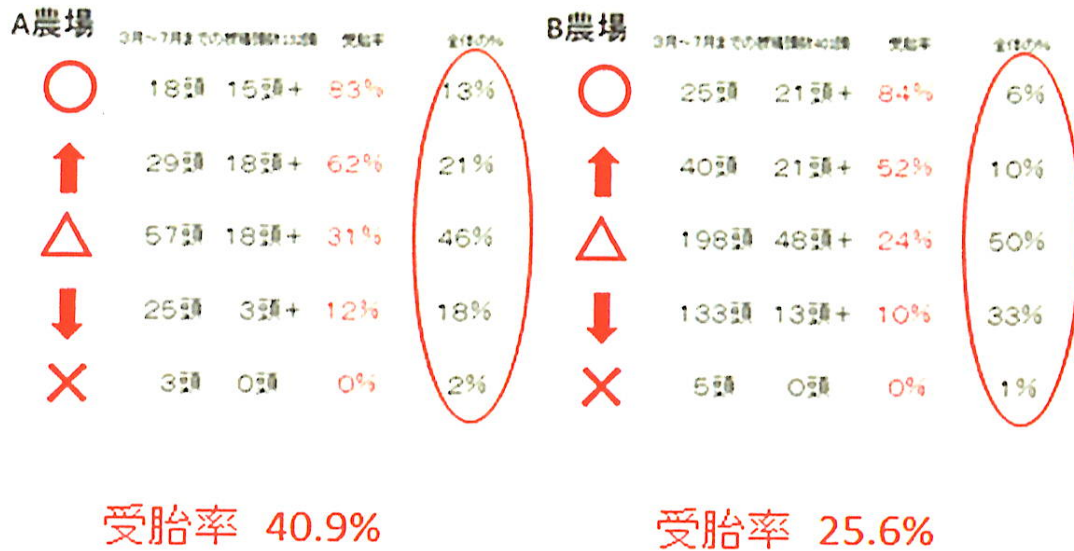


受胎の階層から見えること

前回に続き卵胞血流量別の受胎率からみた受胎の階層について話します。

図 1



上の図を見て頂くと A 農場が 40.9%、B 農場が 25.6%と農場全体の受胎率に差がありますが、受胎の階層を見て頂くと卵胞血流量別の受胎率に差は殆どありません。卵胞血流が良い牛の割合が多いと全体の受胎率は高くなり、卵胞血流が低い牛の割合が多いと全体の受胎率は低くなる事がわかります。

図 2

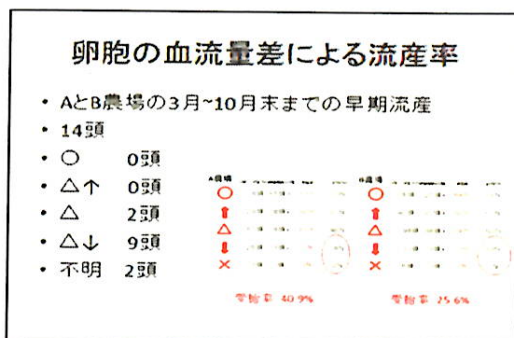
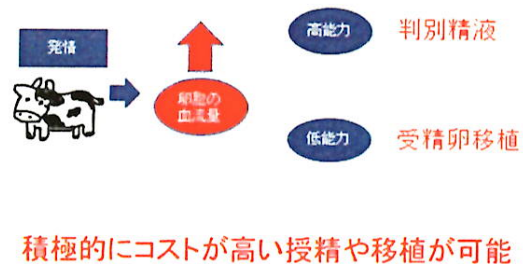


図 3 卵胞血流量から見る授精戦略



卵胞血流量が低いと受胎率の低下だけではなく、その後の早期流産率（30日～60日）にも影響があります（図2）。卵胞血流量の低いまま排卵する事でその後、良い黄体が出来づらく早期流産に繋がるのではないかと考えられます。図1と図2ことから卵胞血流量を見る事で授精戦略をたてられる事で無駄なコストを抑え、効率的にコストの高い優良遺伝子の受精卵を受胎率の高い牛に植える事が可能になると考えられます。この続きは次号で説明させていただきます。

太田